

企業短期経済観測調査（道北\*地域分）  
（調査対象企業：道北\*44社）

※上川、宗谷、オホーツク総合振興局管内  
回答社数構成比 %ポイント  
（ ）内は前回調査時予測

（判断D. I.）

	2016/12月	2017/3月	6月	9月	12月	2018/3月	2018/6月 までの予測
業況判断 ＜ 良 い - 悪 い ＞	14	12	19	20	19	( 8 ) 14	16
うち製造業	40	40	50	60	40	( 20 ) 0	10
非製造業	8	5	11	8	14	( 5 ) 18	18
国内での製商品・サービス需給 ＜ 需 要 超 過 - 供 給 超 過 ＞	▲20	▲9	▲7	▲2	0	( ▲9 ) ▲5	▲2
製商品在庫水準 ＜ 過 大 - 不 足 ＞	3	3	▲6	▲3	▲6	▲6	—
生産・営業用設備 ＜ 過 剩 - 不 足 ＞	0	▲6	▲9	▲9	▲9	( ▲11 ) ▲5	▲5
雇 用 人 員 ＜ 過 剩 - 不 足 ＞	▲37	▲34	▲45	▲40	▲40	( ▲42 ) ▲41	▲44
資 金 繰 り ＜ 楽 だ る - 苦 し い ＞	15	13	6	10	15	14	—
金融機関の貸出態度 ＜ 緩 い - 厳 し い ＞	34	33	25	23	33	31	—
借 入 金 利 水 準 ＜ 上 昇 - 低 下 ＞	▲18	▲22	▲7	▲2	4	( 10 ) 8	8
販 売 価 格 ＜ 上 昇 - 下 落 ＞	▲4	2	0	2	▲7	( 0 ) 2	5
仕 入 価 格 ＜ 上 昇 - 下 落 ＞	27	31	28	17	25	( 34 ) 33	40

（注）「製商品在庫水準判断」、「資金繰り判断」および「金融機関の貸出態度判断」の「2018/6月までの予測」は調査対象外。

（事業計画）

全産業、前年度比%、  
＜ ＞内は前回調査比修正率%

	2016年度実績	2017年度実績見込				2018年度計画				
		上期		下期		上期	下期			
売 上 高	+0.9	+1.4	< +1.7 >	-1.6	< +0.4 >	+4.2	< +3.0 >	-4.7	-2.5	-6.7
経 常 利 益	+44.1	-12.0	< -0.5 >	+21.0	< +3.3 >	-38.4	< -5.9 >	-22.7	-35.2	-3.0
当 期 純 利 益	+49.0	+3.9	< -9.2 >	+51.6	< -3.5 >	-38.6	< -19.6 >	-21.8	-38.1	+13.9
設 備 投 資 額	+0.6	+81.0	< -1.4 >	+71.4	< +0.6 >	+95.0	< -3.9 >	-61.3	-62.1	-60.3

## 道北地域の企業短期経済観測調査結果（2018年3月）の概要

- 調査対象企業：道北地域 44 社（製造業 10 社、非製造業 34 社）
- 回答率 97.7%（有効回答社数 43 社）
- 回答期間：2018 年 2 月 26 日～3 月 30 日

### 1. 業況判断 DI

- 3月の業況判断 DI（全産業ベース）は+14。前回 2017 年 12 月調査に比べて悪化した（前回+19、前回比▲5 ポイント）。
  - 製造業の業況判断 DI は±0。食料品、木材・木製品や電気機械の悪化を主因に前回調査比悪化した（前回+40、前回比▲40 ポイント）。
  - 非製造業の業況判断 DI は+18。宿泊・飲食サービスの好転を主因に前回調査比改善した（前回+14、前回比+4 ポイント）。
- 先行きの業況判断 DI は、小幅の好転を予測（2018 年 6 月までの予測：+14⇒+16）。
  - 製造業は、建設資材関連で悪化を見込んでいるものの、今回悪化した食料品と電気機械で回復を見込んでいることから、全体では好転する見込み（±0⇒+10）。
  - 非製造業は、建設関連で悪化を見込む一方、宿泊・飲食サービスや運輸で好転を見込んでいることから、全体では横ばいの見込み（+18⇒+18）。

### 2. 各種判断 DI

- 「製商品・サービス需給判断 DI〈需要超過－供給超過〉」（±0⇒▲5）は、建設関連での需給逼迫感の緩和を主因に再び供給超となった。先行きは運輸で荷動きの増加を見込んでいることなどから、全体では供給超幅が若干縮小する予測（⇒▲2）。「製商品在庫水準判断 DI〈過大－不足〉」（▲6⇒▲6）は、前回比不変。「生産・営業用設備判断 DI」〈過剰－不足〉」（▲9⇒▲5）は、建設関連と運輸で不足感が緩和したことから、不足超幅が縮小。先行きは横ばいの見通し（⇒▲5）。

- 「雇用人員判断 DI<過剰－不足>」(▲40⇒▲41)は、引続き幅広い業種で不足と回答する先がみられた。先行きについても、こうした状況に変化は見込まれていない(⇒▲44)。
- 企業を取り巻く金融環境についてみると、引続き緩和された状態が続いている。借入金利水準は上昇超幅が若干拡大した(「借入金利水準判断 DI<上昇－低下>」: +4⇒+8)ものの、金融機関の貸出態度の緩い超幅が引続き大きい(「金融機関の貸出態度判断 DI<緩い－厳しい>」: +33⇒+31)ほか、資金繰りの「楽である」超幅も大きい状況が続いている(「資金繰り判断 DI<楽である－苦しい>」: +15⇒+14)。
- 「仕入価格判断 DI<上昇－下落>」(+25⇒+33)は、建設関連や宿泊・飲食サービスを中心に上昇超幅が拡大。先行きも建設関連を中心に上昇が続く予測(⇒+40)。「販売価格判断 DI<上昇－下落>」(▲7⇒+2)は、建設関連や宿泊・飲食サービスを中心に再び上昇超に転化。先行きは、宿泊・飲食サービスや運輸で上昇を見込んでいることから、上昇幅が小幅拡大する予測(⇒+5)。

### 3. 事業計画

- 2017年度の実績は、売上高は前年度比+1.4%と小幅増加となる見込み。経常利益は同▲12.0%、当期純利益は同+3.9%となる見込み。設備投資額は同+81.0%の大幅増加で着地する見込み。
- 2018年度の計画は、売上高は前年度比▲4.7%、経常利益は同▲22.7%、当期純利益は同▲21.8%、設備投資額は同▲61.3%となっている。

以 上